

消費者教育 実践事例集

小学生向け金融教育で 生きる力を学ぶ

キャサリンとナンシーの金融教育

公立小学校を始めとする教育機関、金融庁・金融広報委員会など公的機関主催の金融教育の講座を行う。講座実績は2020年3月時点で200を超える。



キャサリン(左)とナンシー(右)

小学校の全学年で金融教育を実施

私たちは証券会社出身のファイナンシャルプランナーです。キャサリン(竹内かおり)とナンシー(西岡奈美)と称し、2人で関西圏を中心に小学生向け金融教育を行っています。共に小学生の子どもを持つ母親であることと、キャサリンとナンシーという名前でも活動することで児童とすぐに仲良くなれることが強みです。

金融教育の授業実施のきっかけは、2013年に兵庫県三田市に住むキャサリンが子どもの担任教員に「他の特別授業と同じくらいお金の教育も生きるために必要です！ぜひお金の授業をやらせてください」と金融教育への思いを話したことでした。初年度は1学年(2年生)での実施でしたが、教員の学校への積極的な働き掛けと学校の厚意もあって年々対象学年が拡大し、現在は全学年で実施しています。本稿ではこの三田市内の小学校で私たちが実施している授業について紹介します。

お金はありがとうのしるし

私たち親世代の子ども時代と違い、現代はキャッシュレス化が進み、現金を目にする機会が減っていることはご承知のことでしょう。授業で「お金はどこからやってきますか？」と質問するとクラスに1人は必ず「ATM」「銀行」と即答する児童がいます。質問の意図はもちろんそういう意味ではありません。家庭にお金があるのは、家族の誰かが仕事をして、会社やお客

様から「(働いてくれて)ありがとう」の交換でやってきているということをクイズも交えて話しています。実は当たり前のことで、児童も頭では理解しているのですが、改めて考えてもらうことで「お金はありがとうのしるし」であることを確認します。この「お金はありがとうのしるし」が全学年共通で届けているメッセージです。世の中のお金は「ありがとう」の気持ちと一緒にめぐっていると考えることができれば、誰かを悲しませるような間違った使い方にはならないと思っていますし、それが生きる力につながると信じています。6学年分のカリキュラムは表のとおりです。金融教育の4つの分野「生活設計・家計管理」「金融や経済の仕組み」「消費生活・金融トラブル防止」「キャリア教育」*を満遍なく配置した内容としました。

リアルな体験を通じてお金に親しむ

授業の時期は、児童の習熟度と学校の授業計画の都合により、3学期に設定されています。

1年生の授業では、特にお金の印象がネガティブにならないように考えて授業を作っています。授業のテーマは「お金と仲良くなろう！」で、手作りの模擬貨幣を見せながら、「今、日本で使われている丸いかたちをしたお金は6種類あります。知っている人はいますか？」などの簡単なお金クイズをします(写真1)。そして、なぜこのお金が存在するのか？を考えてもらうためにお金の歴史について私たちが寸劇をします。その後、班ごとに外国のお金や日本の古

* 金融広報中央委員会『金融教育プログラム(全面改訂版) - 社会の中で生きる力を育む授業とは -』(2016年2月)より
<https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/program/>

表 6学年分のカリキュラム

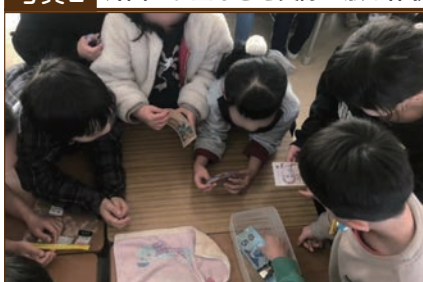
対象	学習内容	ねらい	4つの分野*	対応科目
1年生	お金と仲良くなるろう！物のねだんを知ろう！	日頃使用する硬貨や紙幣に関心を持ち、お金に親しむ	家計	総合・生活
2年生	お金はありがとうとの交換であることを体験	お金を使って、お買い物、お店屋さんをし、お金の流れを学ぶ	家計・消費	総合・生活
〃	働くって？ ありがとうをもらうには？	自己分析・自己理解を通して、働くことについて考える	キャリア	総合・生活
3年生	日常生活にかかるお金	日常生活にかかるお金の知る、欲しい物と必要な物を考えてみよう	経済	社会・道徳
4年生	銀行のしごと	社会のお金の流れやしぐみを知る	経済	社会・道徳
5年生	電子マネーでお買い物！	プリペイドカードなど見えないお金について学ぶ(使用上の注意含む)	消費	社会
6年生	5年間のまとめ	5年間分の学習内容の復習、おばあちゃんへの手紙	家計・キャリア	家庭科

*金融教育の4つの分野「生活設計・家計管理」「金融や経済の仕組み」「消費生活・金融トラブル防止」「キャリア教育」をそれぞれ「家計」「経済」「消費」「キャリア」と表記

写真1 お金クイズのようす



写真2 外国のお金などを実際に触る体験



銭を触ってもらったり(写真2)、教員の提案で作成したお金カルタをしたりします。

授業を行ううえで大切にしていることは、主に2点あります。1点目は「できる限りリアルな体験を行うこと」です。例えば、模擬貨幣を使ったお店屋さん体験を行ったり、架空の電子マネーカードを作り、キャッシュレス決済の疑似体験をしてもらったりするなどで、お金そのものやお金の流れを身体で感じてもらうこととしています。教える側の準備する物は多くなりますが、児童の食いつき具合が明らかに違うと感ずますし、授業の楽しさにつながります。

2点目は「教員の思いをかたちにすること」です。教員は日々の教育活動の中でいろいろな経済状況を持つ児童と接しており、だからこそお金のことを話しにくい現状もあるように感じます。そこで、事前に打ち合わせを必要回数行い、教員が児童に伝えたいことを確認し、できる限り授業に取り入れることを意識しています。また、教員のお金にまつわる体験談を話してもらったり、劇の一役をお願いしたりなど負担のないかたちながらも、私たちの授業に関わって

もらうように準備しています。

紹介した1年生の授業後の感想では、「お金カルタが楽しかった」「いろいろなお金が見られて、触ることができて楽しかった」などがあり、児童が体験を通してお金を

ポジティブに受け止める姿を確認できました。

金融教育の認知度を高めるために

金融教育は、まだまだ発展途上の教育で認知されていないということが課題です。そのため、「お金のことを学校で教えないといけないの?」とか、「善い活動だと思うけれど、上司である管理職の理解を得るのが難しい」といった声が多く聞かれます。金融教育は、教員を始め、学校の厚意・協力がなければ実施できません。認知されるまでにはさらに時間と努力が必要だと考えています。

金融教育が小学校でスタンダードに行われるよう、今後は教えるプロである教員が容易に金融教育に関わってもらえるようなサービス提供を行うことにより、金融教育を大きく進めることを構想しています。具体的には研修の開催、授業案の提示、授業に関する相談対応、必要な道具の貸し出し、オンラインでの模擬授業の案内などを予定しています。多くの教員に認知されて金融教育が広がり、「ありがとう」の気持ちでお金を使う人が増えることを願っています。